セラピストインタビュー

PROFILE

勤務地	北大阪ほうせんか病院 ほうせんか新型コロナウイルス感染症病棟 HOUSENKA COVID-19 UNIT
所属チーム	リハビリテーション科
入職年度	2019年
職種	理学療法士(PT)

COVID-19 UNITセラピストの役割

新型コロナウイルス感染症患者(軽症・中等症)のADLを維持することが私たちセラピストの大切な役割です。
特に、酸素吸入が必要なほど呼吸状態が悪く、寝たきりの患者様が多いので、リハビリ等で呼吸を確認し、問題無いようであれば、積極的に動いてもらい、ADL の維持・向上を図ります。
通常の病院のセラピストとは違い、呼吸状態の確認、血液データ、胸部CT 等で、適切な判断も必要になる為、腹臥位療法の際には看護師とセラピストが連携を行い、協働しています。

COVID-19 UNITで働いて感じる事

リスク管理という点が通常リハビリ業務と大きく異なると感じています。
正直に言うと、第 1 波や第 2 波の時点では、現在ほど予防策が確立しておらず、自分が感染するかもしれないというリスク(不安)を感じていました。
現在は、徹底された感染対策のおかげで、しっかりと感染予防をすれば感染しないことが分かり、安心して業務に取り組めています。
メディア等でも話題になっており、興味を持っていたことに加え、自身が呼吸認定の資格を保持していることもあり、COVID-19 UNIT(以下コロナ病棟)なら資格を活かしていけると思い、患者様の為、前向きに業務に励んでいます。
コロナ病棟のセラピストは、感染リスクの回避の為に少数精鋭で運営していることもあり、通常の病棟よりも、医師と密にコミュニケーションを取れるのも大きなメリットだと感じています。

やりがい と 難しさ

新型コロナウイルスに感染し、体を動かす機会が減少することで、寝たきりになってしまう患者様が多いのですが、リハビリ介入を行うことで、ADLの向上につながった時に 1 番やりがいを感じます。
PPE(個人用防護服)着用による暑さや動きにくさに加え、手袋の 2 重着用による感覚の変化に難しさを感じます。
また、新型コロナウイルス感染症患者の増減に業務量が影響される為、感染者数が増加した際には切迫してしまうなど、難しいこともありました。
今では、一般的なリハビリ業務では得られない経験として自身のスキルアップにつながっていると思います。

豊泉家の強み

経営・運営方針が現場職員にも共有されており、日々、取り組むことが明確となりモチベーションに繋がっています。
若い職員が多く、コミュニケーションが活発なこともありチームワークが良いです。リハビリを通じて「患者様に元の日常生活を送っていただく」ことを共通の目標として、それぞれの業務に取り組んでいます。
看護師をはじめとする、他職種と情報共有等の連携が上手く図れており、患者様に適した医療サービスを提供できていると感じます。

その他情報▶

勤務地について

大阪コロナ高齢者医療介護臨時センター・ほうせんか（大阪市住之江区）勤務の場合、契約期間終了後に北大阪ほうせんか病院(茨木市)にて継続勤務も相談可能です。

勤務時間について

8:45～17:00　休憩60分　夜勤なし

その他詳細は求人ページをご覧ください